

2025年度 国際観光都市機能整備調査事業 報告書概要

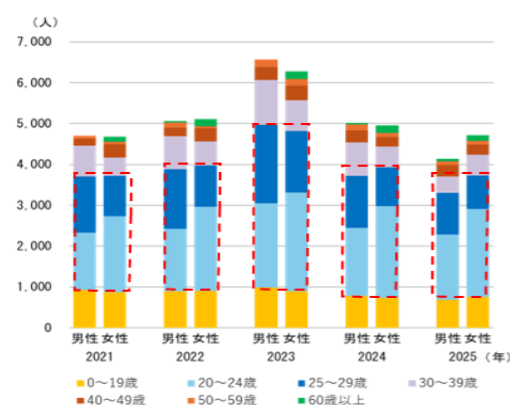
I 調査事業の概要

中部国際空港やその周辺エリアの魅力ある機能整備の具体化に向け、本県及び我が国を取り巻く社会情勢や環境について整理の上、当地域のポテンシャルを十分に発揮していくため、今後、さらに必要となる取組の方向性について調査・検討を行った。

II 基礎情報の整理

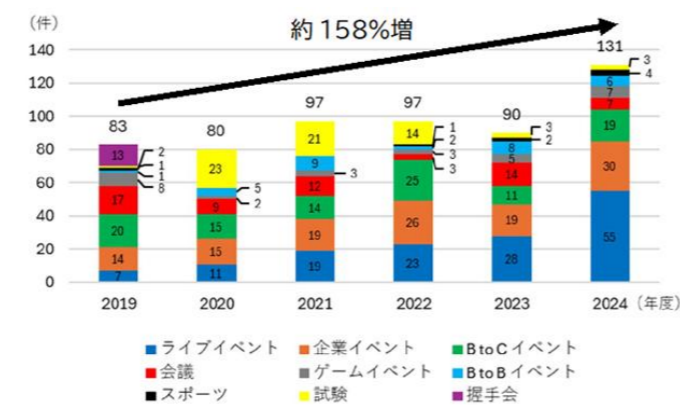
- 2025年の愛知県の転出入状況は、転入超過となっている。一方、転出については、大多数が東京圏に転出している。特に20歳代の転出が男女ともに多く、大学卒業後の就職時に当たる20～24歳の転出超過が最も大きい。
- 2024年度に愛知県国際展示場で開催されたイベントの開催件数は131件であり、2019年度と比較して約158%増、2023年度と比較して約146%増となっている。

愛知県から東京圏への転出超過者数の推移



(出典)総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2020年-2025年)に基づき作成

愛知県国際展示場のイベント種別ごとの開催件数の推移



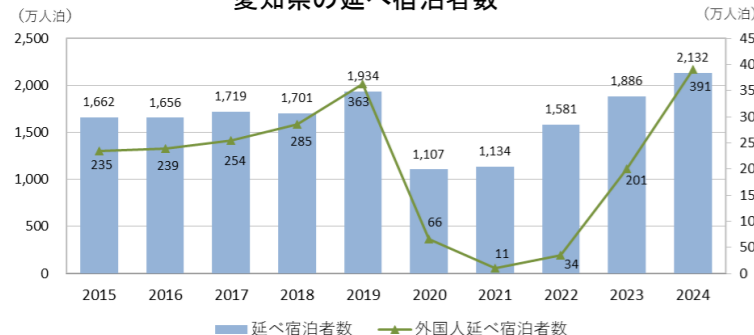
(出典)愛知県ウェブサイトに基づき MURC 作成

III 社会情勢の変化等を踏まえた機能整備の調査・検討

■国内外の旅行者の動向

- 愛知県の日本人延べ宿泊者と外国人延べ宿泊者を合わせた2024年の延べ宿泊者数は、2,132万人泊、外国人延べ宿泊者数は、391万人泊を示し、いずれも増加傾向にある。
- 訪日外国人の都道府県別訪問率(2024年)は、愛知県は9位(6.8%)であり、前年の11位(5.8%)からは増加したものの、東京都や大阪府などと比較すると大きな差がある。

愛知県の延べ宿泊者数



(出典)観光庁「宿泊旅行統計調査」に基づき MURC 作成

訪日外国人の都道府県別訪問率

順位	都道府県	訪問率
1	東京都	51.5%
2	大阪府	39.6%
...
9	愛知県	6.8%

(出典)観光庁「インバウンド消費動向調査」(2024年)に基づき MURC 作成

■中部国際空港やその周辺エリアのポテンシャルを十分に発揮していくため、今後、さらに必要となる取組

- MICEを核とした国際観光都市を実現するため、社会情勢の変化や観光のトレンドを踏まえ、愛知県の有するMICE施設、魅力的な都市機能、宿泊施設、文化、歴史、産業、スポーツ、自然などの数多くの要素を活用し、MICEを誘致・開催するとともに、来訪者の体験価値や満足度を高める取組を実施していくことが重要である。

社会情勢の変化や観光のトレンドを踏まえた「今後、さらに必要となる取組」

社会情勢の変化 観光・MICE業界を取り巻く動向	観光のトレンド	愛知県の要素	今後、さらに必要となる取組
多様性社会の進展 多様な食習慣・文化的慣習をもつ訪日外国人旅行者の受入環境整備	× サステナブルツーリズム ウェルネスツーリズム 高付加価値型観光 体験型観光	× 文化	▶ ①食文化の活用と多様性対応
地域の観光資源充実のための環境整備	× ウェルネスツーリズム 体験型観光	× スポーツ	▶ ②スポーツツーリズムの推進
MICE誘致・開催促進	× 高付加価値型観光	MICE施設 × 宿泊施設 産業	▶ ③MICE・プレジャー促進
文化資源を活用した全国各地のインバウンド創出・拡大	× 高付加価値型観光 体験型観光	× 文化 歴史 スポーツ	▶ ④「推し活」の活用
人口減少・少子高齢化 デジタル化への対応	× サステナブルツーリズム 高付加価値型観光 オーバーツーリズム対策	MICE施設 × 魅力的な都市機能 宿泊施設	▶ ⑤DXの推進
持続可能な社会の構築 地域一体となった持続可能な観光地域づくりの推進 交通ネットワーク機能強化	× サステナブルツーリズム	MICE施設 × 魅力的な都市機能 宿泊施設	▶ ⑥脱炭素への取組

主な取組の方向性

① 食文化の活用と多様性対応 ○愛知県の強みである発酵食の「体験価値向上」 →MICE参加者や観光客向けに八丁味噌蔵見学、味噌仕込み体験などの発酵食を活用した参加型・交流型のコンテンツを充実 ○あらゆる人が食を安心して楽しめる環境を整える「多様性対応の高度化」 →アレルギーや宗教的制約、ベジタリアン・ヴィーガンなど多様な食ニーズに対応したご当地グルメの開発
② スポーツツーリズムの推進 ○スポーツイベントの戦略的活用 →国際的なスポーツイベントや大会をMICEプログラムに組み込み、参加者や観戦者が会議・展示会・交流会とスポーツ観戦・体験を同時に楽しめる仕組みの構築
③ MICE・プレジャー促進 ○世界水準のMICE環境整備 →世界水準のMICE施設の整備・機能強化を進めるとともに、愛知県ならではのユニークベニュー(名古屋城、徳川園、トヨタ産業技術記念館、レゴランド等)をMICEやレセプション会場として積極的に活用
④ 「推し活」の活用 ○「推し活」を観光・MICE・産業振興と結びつける総合的な仕組みづくり →アニメやマンガ、ゲーム、アーティストなどの“推し”をテーマにしたイベントを積極的に企画・誘致
⑤ DXの推進 ○地域全体のデジタル基盤強化 →来場者の動線分析による混雑緩和、スマートパーキングやキャッシュレス決済、顔認証による入退場管理、リアルタイムの多言語案内など、参加者の利便性と安全性を高める仕組みを導入
⑥ 脱炭素への取組 ○MICEを核とした社会実装モデルの構築 →MICE参加者の空港・駅・会場・宿泊施設等間の移動に水素バスや燃料電池タクシー、シェアサイクルなどゼロエミッションモビリティを導入